

【悪魔】 最近、「高大連携」と銘打った企画をあちらこちらで目にしますが、一体何のために行われているのですか？ 高校生に対して大学の教員が出張講義をしたり、高校生が大学の講義を聞きに行ったりするものが多いようすが。

【天使】 いろいろな形態のものが実施されているようだが、従来、大学入試のためにほぼ完全に分断されていた高校教育と大学教育との間に、実質的な連続性を持たせることによって、高校教育に大学入試準備以上の意義があることを高校生に再認識させ、高校生自身の将来の進路選択についても、より広範な情報提供を行うことを目的として行われているものだ。

【悪魔】 なるほど。そういうことが目的だから、学力不足の大学生に対して高校の教員が補習をしてくださる、という形のはほとんどないわけですね。でも、高校生の教養を深めさせたり、将来の進路について情報を得させたりするのには、わざわざ大学の講義を聞かせたり、大学の教員が出張講義をしたりする必要はある

悪魔と天使の 法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第9話

高大連携と教育効果

んでしょうか？ 高校の授業の中で、高校の教員が授業内容を工夫することで、十分なのではないですか？

【天使】 高校生にとっては、通常の授業と異なる講師や環境の中で受講することによって、高校の標準的な学習との関係を自覚的に考えていくための良い機会となる。また、大学の方でも、少子化の影響を受けて受験生の数が徐々に減少しつつあり、大学自身の存続のために学生の確保を積極的に行う必要が生じているから、大学教員による講義を高校生に対して行い、大学の特徴や魅力を高校生や高校に示すという、実質的な広報活動としての意義があるとも言われている。

【悪魔】 それぞれの思惑があるのは何となく分かりますが、高校生に対する教育効果、という点では少し問題があるように感じるんですね。

分野によっても違いますが、例えば大学の法学の講義は、議論の全体像をつかむために、かなりの知識が必要なことが少なくありません。



まして、一回限りの講義では、時間の制約が厳しいですから、ごく限られた問題の、ある一面だけを議論することになります。それにそもそも、大学の教員の教え方は、それぞれの自己流のものが多くですから、高校生に対する教育効果という点では、かなり不安定になってしまいます。

教育機関の一番大事な役割は、高校でも大学でも同じだと思いますが、その時その時の子どもたちの成長に合わせて、そこでしか教えられないことを教えてあげることはずです。高校と大学とでは、子どもたちが持っていることを期待される知識や考え方に大きな差があるわけですから、大学の教員の講義をそのまま高校生に聞かせるのではなくて、高校生の能力や興味に合わせた授業形態を高校の教員の側が工夫していかない限り、教育効果は期待できないと思いますよ。

【天使】 新たな企画の実現に際して、様々な問題点が出てくることは避けられない。従来の教育機関は、個々の独立性を重視し過ぎるあまり、他の教育機関と教育上の連携を取ること



自体がほとんどなかったわけだから、連携企画の意義をもっと積極的に認めるべきだ。

【悪魔】 それならもっとはっきり言いましょうか。教養を深めたり、情報を集めたり、ということは、自分のためになることです。本来、自分自身で行うべきです。ですから、いろいろな人の講演を聞くにせよ、大学の講義に潜り込むにせよ、高校生が自分自身の判断で行わなければあまり意味がないわけで、高校や大学がお膳立てをして高校生を「お客さま」として参加させるのでは、管理教育の延長としての効果しか期待できないでしょう。

それに、雰囲気を感じとるだけ、と割り切つて聞くのならともかく、ただ一回の講義で知識と教養が飛躍的に向上することはありえないはずで、もし仮にあったとしたら、それまで受けてきた教育の内容の方に、むしろ検討し直す点があるんじゃないでしょうか。未知のものからの刺激もたまにはいいのかもしれませんが、どうも大学の講義のおもしろおかしい部分だけを、高校生がつまみ食いしているような印象が拭えないんですよ。